

MEMSファンドリーサービス産業委員会

MEMS協議会 ファンドリーサービス産業委員会 委員長 松下電工株式会社 富井 和志

1. 概要

MEMS (Micro-Electro-Mechanical Systems) は、徐々に実用化が進み、大きな市場が立ち上がり始めてきました。近年、その開発、製造におけるファンドリーサービスの役割は益々重要になってきています。当MEMSファンドリーサービス産業委員会では、日本独自のネットワークを構築するために活動を行っています。

ここでは本委員会の活動概要を紹介します。

2. ファンドリーサービス産業委員会の活動

当委員会は、マイクロマシンセンター内で2002年から活動を開始し、MEMSファンドリー共通の課題について定期的に協議を重ねながら、MEMSファンドリーユーザーへのPR活動を中心に活動を行ってきました。

現在は、それぞれ特長を持ったMEMSファンドリーに関わる11の企業、団体が会員となっています。

(図 1)

主な活動内容と今後の取組みを以下に紹介します。

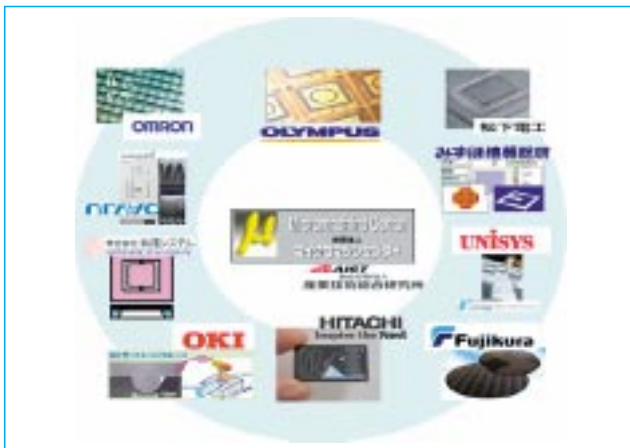


図1 ファンドリーサービス産業委員会の会員



図2 共通窓口「MEMStation」の流れ

(1) ファンドリーサービスネットワークの運営

ユーザーとメーカーの接点強化のために、ユーザーがファンドリー企業へのアプローチが比較的容易にできるように、MEMStationというユーザーからの問合せに対する共通窓口を産業委員会のホームページに設け、2005年7月よりその運用を開始しています。(図 2)

(2) MEMSセミナー等の教育、合同広報活動

2003年からは、MEMS技術者向けのセミナーとして、MEMS講習会を企画し、2回/年、東京と京都で過去7回開催し好評を得ています。また、本ネットワークを広く知って頂くため、マイクロマシン展での出展者合同セミナー等も行いました。昨年度は、地方の公設試とも連携して活動紹介を行い、100名以上の方々に参加頂いて各企業のサービス内容等をご理解頂きました。

(3) MEMS設計解析ツール MemsONEの普及活動

現在、NEDOのプロジェクトで開発中のMEMS用設計・解析システム“MemsONE”について、プロジェクト終了後の普及活動に当産業委員会も協力していく予定です。

(4) MEMS産業拡大のための提言

従来からMEMSは、半導体に比べ、標準化が難しく、各社が独自の設計、プロセスで開発を進めるため、実用化まで長い期間を要することが多く、大学などの研究成果を用いて中小の企業がMEMS量産、実用化までもっていくことは容易ではありませんでした。これらの課題に対して、ファンドリーの利用を促進するため、例えば、設計ガイドライン作りやプロセスメニューの開発など、ファンドリー機能の強化について議論し、提言をしていきたいと考えています。

3. まとめ

ファンドリーサービス産業委員会は、今年度から、マイクロマシンセンター内のMEMS協議会の中での活動となり、より広く産業界との交流を行うと共に産官学との連携をより深めながら、ファンドリーネットワークの構築に向けて推進していきたいと考えております。